

語用論から見る置き換え可能な V在～と在～V

芳沢ひろ子

0 V在～と在～Vとは？

動作とそれに関わる場所を表す構造には“V在～”と“在～V”があり、この意味の違いとしては普通以下のように述べられている。

“V在～”は「ある動作をして、何かがある場所に位置づけられることを表す」

“在～V”は「ある場所で何かが行われることを表す」

跳在地上（ほかの場所から地面にとびおりる）

在地上跳（地面の上でとびはねる）

この二つの構造のもたらす意味の違いは明瞭である。

しかしあるタイプの動詞ではこの違いが明瞭ではなくなる。たとえば

“V在～”

“在～V”

坐在椅子上

在椅子上坐（着）

住在东京

在东京住

死在床上

在床上死

走在大街上

在大街上走

これらの中国語の“V在～”型と“在～V”型に意味の明確な違いは認められない。しかし、にもかかわらずネイティブスピーカーはこれら違いの明確でない“V在～”型と“在～V”型を場面によって使い分けているように見える。仮にそうだとしたら、そこにはどのようなルールがあるのか。またなぜこれらの動詞ではこのように違いが明確ではなくなるのか。違いが明確ではなくなる時、“V在～”と“在～V”の文法的な意味には変化が起きているのだろうか¹⁾。

1 “V在～”と“在～V”の置き換えが可能な動詞

朱徳熙 1981 等²⁾によれば、“V在～”と“在～V”の置き換えが可能な動詞は以下のタイプである。

- ①動作に付着と遺留という意味を持つ他動詞(写 貼 放 摆 など)
- ②付着と遺留という意味を持つ静態的な自動詞(坐 躺 站 靠 睡 住 など)
- ③出現・消失動詞(出現 出生 死 など)
- ④“走”型自動詞(走 跑 跟 流浪 など)

このうち①のタイプについては“V在～”と“在～V”の違いを考慮する際、前者において処置性が関与するためこれを考察の対象からははずす。すなわち“字写在黑板上”は“把字写在黑板上”と同義であり³⁾、このタイプの動詞が“V在～”の構文に用いられる時そのコンテキストは常に処置性を必要とする。一方処置性を求めるコンテキストで“在～V”の構文が用いられることは考えにくい。明瞭でない“V在～”と“在～V”の違いを探るのに、このタイプは不適切なので考察の対象からははずすことにする。

また④のタイプの動詞は、②のタイプの静態的自動詞と異なり明らかに動きを持つ。しかし他の動態的な自動詞の場合(たとえば“跳”)では、“V在～”と“在～V”の意味するところに前掲したような明瞭な違いがあるのに、このタイプの動詞ではその違いが明瞭ではない。そこでこれらの仲間をとりあえず“走”型自動詞と呼んでおく。

すなわちここで考察の対象とするのは②の静態的自動詞、③の出現・消失動詞、④の“走”型自動詞の3種類の動詞である。

またこれらの動詞が“V在～”と“在～V”の構文に使われた際の違いについて統語論的アプローチでは明瞭にならない⁴⁾。そこで考察の方法としては主として語用論的方法論によってアプローチしようと思う。ここで言う「語用論的方法論」とは

「特定の場面で、話し手が発話にある特定の意図をこめると、“V在～”と“在

～V”の使用状況にどういふ変化が起きるか」を意味するものとする。

2 静態的自動詞

2.1 “住”における考察

「佐藤愛子と申します。東京に住んでいます」を中国語で言うならば

(1) 我叫佐藤爱子, 我住在东京。

が一般的であろう。

(2) ?我叫佐藤爱子, 我在东京住。⁵⁾

は特殊な状況以外では使われにくい、というのがインフォーマントの反応である。大学で使う語学教科書にも自己紹介の場面はよく出てくるが中国語は(1)タイプ、すなわち“V在～”型になっている。(2)のタイプ、すなわち“在～V”型が現れるとすれば以下のような場面である。

「佐藤愛子と申します。実は私は(皆さんが当然思っらっしゃるように)東京(に住んでいるの)ではなく大阪に住んでいます。」

(3) 我叫佐藤爱子, 其实我不在东京住, 在大阪住。

(4) 我叫佐藤爱子, 其实我不住在东京, 而住在大阪。

(3)がすなわち“在～V”型であるが、しかし“V在～”型である(4)も不自然ではない。

この場面は「聞き手の予想を裏切る」場面である。「聞き手の予想を裏切る」と“在～V”型が使えるのかどうか、もう少し例文を見てみよう。

「僕は今(君が思っているように安アパートに住んでいるのではなく)豪華なマンションに住んでいるんだ」と発話に「聞き手の予想を裏切る」意図をこめた結果は

(5) 我现在在豪华的公寓里住。

(6) ?我现在住在豪华的公寓里。

のように“在～V”型が自然であり、“V在～”型はやや不自然なものとなる。一方、「北京郊外のアパートに住んでいます」と「聞き手の予想を裏切る」意

図をこめなければ

(7) 我住在北京郊区的一所公寓里。

(8) ? 我在北京郊区的一所公寓里住。

と、“V在～”が自然で、“在～V”がやや不自然なものとなる。

小説の用例に当たってみると、北京を舞台にした小説4冊82.5万字による用例では

“V在～”型	“在～V”型
住	8
33	

となっている⁶⁾。大半が“V在～”型だが、これらの小説では数少なかった“在～V”型を観察すると、統語制約上“V在～”型が取れないものと、取れるにもかかわらず“在～V”型になっているものとの2種類があることがわかる。統語制約上“V在～”型にならないとは、たとえば以下のように動詞の後ろに数量補語がつく場合である。

(9) 要我回去在机场住两天 (王朔)

(10) *要我回去住两天在机场

(11) *要我回去住在机场两天

一方統語的には両方が言えるにもかかわらず“在～V”型になっているものとは以下のようなものである。

(12) 她这段时间一直在我这儿住。(王朔)

この用例は以下のように“V在～”型で言うこともできる。

(13) 她这段时间一直住在我这儿。

(12) のこの場面は実は「聞き手の予想を裏切る」形で発話がなされている。

「彼女は(彼の部屋に泊まっていると思っているのだろうがそうではなく)私の部屋にずっと泊まっている」という場面である。

では統語的に“V在～”型でも“在～V”型でもいいにもかかわらず“在～V”型を取るタイプ(これを仮に「“在～V”選択型」と呼んでおく)のすべては「聞き手の予想を裏切る」形で発話がなされているのか、といえはつきり言えないものもある。したがって上記の小説の用例を観察する限り、「在

～V” 選択型」のすべてはコンテキストに「聞き手の予想を裏切る」要素を求めるとは言えない。しかしコンテキストが「聞き手の予想を裏切る」要素を持つ場合、「在～V” 選択型」と親和性を持つということは言えそうである。

2.2 「在～V” 選択型」の意味するもの

ところで張伯江、方梅 1996 では、ある発話において聞き手が A を予期しているが実は B であり、発話の目的が「A ではなく B だ」であれば、その発話の意味の重点、すなわち焦点は“常规焦点”ではなく“对比焦点”であると言い、“对比焦点”の表現の特徴としてストレスの存在、語順変化、“是”という焦点標記や“是～的”という对比成分を用いる等を挙げている。「～に住んでいる」という命題の言語表現において、仮に“V 在～”型が無標、すなわち普通はこう言うという言い方であるとするならば、この型の文の末尾は新情報を示し、ここが“常规焦点”のありかとなる。それならば“在～V”型はこの命題の有標表現として“对比焦点”をになっているのではないか。「聞き手の予想を裏切る」要素と「在～V” 選択型」との親和性、統計における“V 在～”型の数の多さ等はある程度この仮説の裏打ちとなる。またストレスについて (1) (3) (4) (5) (7) の用例をインフォーマントに読んでもらうと以下の結果が得られた。(下線部分がストレスを置いて読んだ部分)

- (1) 我叫佐藤爱子，我住在东京。
- (3) 我叫佐藤爱子，其实我不在东京住，在大阪住。
- (4) 我叫佐藤爱子，其实我不住在东京，而住在大阪。
- (5) 我现在在豪华的公寓里住。
- (7) 我住在北京郊区的一所公寓里。

ここからも“V 在～”型の情報焦点がストレスを持たない“常规焦点”で、一方“在～V”型はストレスを持つ“对比焦点”である可能性の高さを感じ取れる。では“V 在～”型である (4) に (3) と同じ現象が認められ、かつ「聞き手の予想を裏切る」表現として使われ得ることについてはどう考えたらいいのか。(4) では“不～而～”という对比表現構造がここに関与していると考え

のが自然であろう。

すなわちここまでの分析において、「～に住んでいる」という命題の言語表現において、“V在～”型は無標表現であり、その情報焦点は“常规焦点”であり、一方“在～V”型は有標表現で、その情報焦点は“对比焦点”であるという仮説はある程度の説得力を持つと言えよう。

2.3 姿勢動詞における考察

上記の説がより説得力を持つためには、“住”と同様に“V在～”型と“在～V”型が置き換え自由な他の動詞でも検証をしてみる必要がある。“住”と同じ置き換え可能な静態的自動詞の多数を占めるのは“坐”“站”など姿勢動詞だが、ここではそれらについて、特に“坐”について検証してみることにする。

まずは前掲小説用例の中の姿勢動詞における“V在～”型、“在～V”型の数を見てみると

	“V在～”型	“在～V”型
坐	115	28
站	120	4
躺	44	4
蹲	14	1
趴	12	0

と“V在～”型が多数を占めるのは“住”と同様である。“在～V”型用例を観察するとここでも統語制約が関与していると思われるものが見られる。たとえば

(14) 我们便在杯盘狼藉的桌旁坐下 (王朔)

(15) 又在这个冷饮店里坐了几个小时 (王朔)

(16) 你打算在那儿站一晚上啊? (王朔)

などでこれらは動詞の後ろに補語成分がついて“V在～”型を取ることは不可能である。ではこのタイプの動詞にも[“在～V”選択型]、すなわち統語的には“V在～”型でも“在～V”型でも可能だが、あえて“在～V”型を選択し

ていると思われる用例はあるだろうか。

(17) 去吧, 你们为所欲为吧, 丽丽在我屋坐着。十一点以前一定得走啊!

(黑马)

(行けよ、君たちは(君たちの部屋で)したいようにすればいいだろう。麗麗は(君たちの部屋ではなく)僕の部屋にい(て君たちの邪魔をしないでい)るから。だけど11時前には出ていってくれよ)

ここで“丽丽在我屋坐着”だけを取り出してみるならばこれは

(18) 丽丽坐在我屋里

と言うこともできる。しかしこの場面では“在我屋”は単なる場所ではなく、「あなたの部屋ではなく」を言外に匂わせた「私の部屋」なのである。こうした場面でもし(18)を使うなら奇妙なものになる。なぜか。「～に坐っている」という命題の言語表現において、“V在～”型は無標でありこの構造の情報焦点は“常规焦点”のありかであって“对比焦点”をになってはおらず、したがって「あなたの部屋ではなく私の部屋」という対比をこめた発話において(18)では対比性が出てこないからである。

この推測が正しければ、“坐”の“V在～”型は「～に坐っている」の無標表現であり、“坐”の“在～V”型はその有標表現で、単に「～に坐っている」ではなく、「(○○ではなく)●●に坐っている」という意味を持つ。つまり「○●に坐っている」という「聞き手の予想を」裏切るという要素を持つ。それは時に「●●に坐っている」の「●●に」の部分の強調という派生効果を持つこともあるだろう。

「ここにおかけください」と言われて、「いや私はあちらに坐ります」という場面で

(19) 不, 我坐在那儿!

(20) 不, 我在那儿坐!

は両方とも使うことができるが、インフォーマントによると「あなたの言うこちらではなくあちら」を強調したい時は(20)の方が自然であり、逆にそうした意思がない時は(19)が自然になるという。

3 出現・消失動詞

ここでもまず前掲小説用例の中のV在、在Vの数を見てみよう。

	“V在～”型	“在～V”型
死	7	0
出現	23	5
消失	4	0
生	5	0
发生	3	0

と圧倒的に“V在～”型が多い。“在～V”型用例で統語制約を受けていると思われるものではたとえば

(21) 我从来没在她的梦中出现过 (王)

(22) *我从来没出现过在她的梦中

がある。動詞の後ろにアスペクト助詞“过”がついて“V在～”型を取ること
は不可能である。また「“在～V”選択型」の用例としては以下のようなもの
がある。

(23) 潘佑军一进门就对我说：

“你看我给你把谁领来了？”

肖超英微笑着在他身后出现，低矮的门使他进门得低着头。

“唉哟，超英，你怎么回来了？”我忙跳下床，高兴地迎上去。(王朔)

(潘佑軍は部屋に入ってくるなりこう言った。「おい！誰を連れてきたと思う？」
肖超英が笑いながら彼の後ろから現れた。ドアの丈が低いので彼は首をすくめ
て入り口をくぐる。「超英じゃないか！帰ってきたのか、お前！」私は大喜び
でベッドから下りるなり彼を迎えに出た)

(24) ?肖超英微笑着出现在他身后，

(24) の用例は単独で使うならばまったく問題ない。しかしこの場面でもまた
“他身后”という場所は単なる場所ではなく、この小説の語り手の意表をつい
た場所である。語り手は「超英」なる人物とここで会えるとは思っていない、超

英は「(自分が予想していた場所ではなく)彼の後ろ」に現れたのである。この場面で(24)が使いつらいのは、(18)と同様、「～に現れる」という命題の言語表現において、“V在～”型の情報焦点は“常规焦点”のありかであって“対比焦点”をになつてはおらず、したがって「予想していた場所ではなく、彼の後ろ」という対比をこめた発話において対比性が出てこないからであろう。

このように出現・消失動詞においても静態型自動詞と同様の現象があるならば、このタイプの動詞においても“V在～”型は無標表現であり、“在～V”型はその有標表現で、単に「～で～している」ではなく、「(○○ではなく)●●で～している」という意味を持つであろう。つまり「○○で～している」という「聞き手の予想を」裏切るという要素を持つ。たとえば、「彼」がアメリカで死んだ、と思っている相手に「彼は(あなたが思いこんでいるようにアメリカではなく)中国で亡くなったんですよ」と言う場面で

(25) 他在中国死了

(26) ?他死在中国

(26) が不自然なのもまた前掲の理由からだと思われる。

4 “走”型自動詞

ここでもまず小説用例の中のV在～、在～Vの数を見てみると以下のようなになる。

	“V在～”型	“在～V”型
走	19	10

これまで見てきた他の動詞の用例に比べて“在～V”型が多い。また「“在～V”選択型」を観察してみると、“V在～”型との対比性における違いがあまり明瞭でない例が多い。更に“走”に関しては、やや特殊な動詞であり歌詞などによく使われるというインフォーマントからの指摘もある。

そこで“走”と同類に属する“跑”で観察してみることにする。前掲の小説用例では数がきわめて少ないので、Googleで検索してみる。“跑在”で検索す

ると膨大な用例が出てくるが“在～跑”では検索できないので、“跑在”で検索したものの一部を“在～V”型と比較して検討してみる。

その結果“跑在”に関しては、“V在～”型と“在～V”型に意味の明瞭な違いが出てくるものと、意味に明瞭な違いが出てこないものとの2種類があることがわかった。そして後者の場合、つまり意味に明瞭な違いがなく置き換えが可能と思われる用例では、“在～V”型を用いた時対比性が見られるという、これまでここで検討してきた他の動詞と同様の現象が見られる。

(27) 他总是跑在别人前面。

(28) 他总是在别人前面跑。

(27) では「彼はいつも人(を追い越してそ)の前を走る」のである。一方(28)では「彼はいつも(スタート地点から)人の前を走る」のである。ところが以下の例になるとこのような違いは出てこない。

(29) 她不紧不慢地跑在队伍中间。

(30) 她不紧不慢地在队伍中间跑。

(29)(30)の用例はいずれも「彼女は速くも遅くもなく隊列の真中を走る」という意味だが、(30)の“在～V”型を使うと「(隊列の前でも後ろでもなく)隊列の真中を」という対比性が現れる。つまりこれまで見てきた静態的自動詞や出現・消失動詞と同様の現象が見られる。何が関与してこのような違いが見られるのか、(27)と(29)のそれぞれの意味を検討してみると、(27)では“他”と“别人”の“跑”後の位置が異なっているのに対し、(29)では“她”と“队伍”の“跑”後の位置は同じである。(27)で“他”は“跑”した結果“别人”を追い越し“别人前面”に位置づけられる。(29)では“她”は“跑”した結果何かを追い越すことなく“队伍中间”に位置づけられる。これは(27)においては、“别人前面”が場所として「人が走っている場所」と「その前の場所」という2ヶ所が意識され、このことが関与して「人を追い越す」ことが含意されるのに対し、(29)の“队伍中间”は場所としては「隊列の中」のみで、追い越すことを含意する要素がないからであろうと思われる。したがってたとえば

(31) 他总是跑在别人那里。

と“跑”した後の場所が“别人那里”、つまり「他の人のところ」という1カ所のみである場合、「追い越す」という含意は消え(29)と同じタイプになって“在～V”型との置き換えが可能になり、“在～V”型を使えば対比性が出てくる。ところで(27)では“他”と“别人”の“跑”後の位置が異なり、(29)では“她”と“队伍”の“跑”後の位置が同じであると述べた。ここで(27)の“别人”を“他”の、(29)の“队伍”を“她”の対照点とし、これら対照点に視点を合わせるならば、(27)では“他”に動態変化があり、すなわち“别人”の位置からの移動があり、(29)では“她”に動態変化がない、すなわち“队伍”の位置からの移動はない、と言い換えることもできよう。この(29)の状態を齐沪扬1998では“在空间轴上处于初始状态, 在时间轴上处于运动状态的”と言っている⁷⁾。つまり時間は経過しても場所という空間軸に関してその動きは0(ゼロ)であるという。動いてはいる。しかしその動きには空間移動という変化がない。“走”型自動詞のうち“V在～”型と“在～V”型とが置き換え可能なのは、用例を検討してみるとこの(29)のタイプのみである。ここではこのタイプを、その独特な動態性もしくは静態性に注目して「準静態型」と呼んでおくことにする。

5 “V在～”、“在～V”が置き換え可能になるのはなぜか

ここまでの観察では、静態的自動詞、出現・消失動詞、“走”型自動詞(準静態型に限る)の3タイプの動詞に、“V在～”型と“在～V”型の置き換え可能、その際“在～V”型においては対比性が現れるという2つの現象が見られた。ここではそれがなぜなのか、ということを考えてみたい。

“跳”において“V在～”型と“在～V”型の意味の違いは明瞭であるが、これは“V在～”型構造の持つ意味「ある動作をして、何かがある場所に位置づけられることを表す」と、“在～V”型構造が持つ意味「ある場所で何かが行われることを表す」の乖離が顕著であることによる。“跳在地上”(ほかの場所から地面にとびおりる)と“在地上跳”(地面の上でとびはねる)における大きな

違いは、前者には「移動して着地する」という動きがあるのに対し、後者にはそうした動きがないということである。

一方“坐在椅子上”で使われる時の動詞“坐”には、“跳在地上”で示される「移動して着地する」という動きはなく、その動作は初めから場所に付着している。そのために、“在椅子上坐着”と同様、「椅子」という場所で「すわっている」という動作をしているにすぎないように見える。

“走”型自動詞の準静態型も同様である。“跑在队伍中间”で使われる時の動詞“跑”には“队伍中间”への移動と着地がない。その動作は初めから場所に付着している。そのために、“在队伍中间跑”と同様、「隊列の真中」という場所で「走っている」という動作をしているにすぎないように見える。

“死”や“出现”など出現・消失動詞はどうだろうか。これらはこれらの動詞の意味そのものに時間的、空間的幅がないために、その移動と着地は瞬間的で軌跡を描くことがない。したがって“死在中国”と“在中国死了”はともに「中国」という場所で「死んだ」という動作をしているにすぎないように見える。ここで「すぎない」と書いたのは、“V在～”型構造の持つ意味「ある動作をして、何かがある場所に位置づけられることを表す」意味が消えて意識されるさまを表したかったからである。また「ように見える」と書いたのは、“V在～”型構造に置き換えられる以上は「ある動作をして、何かがある場所に位置づけられることを表す」意味は内在しているはずだからである。

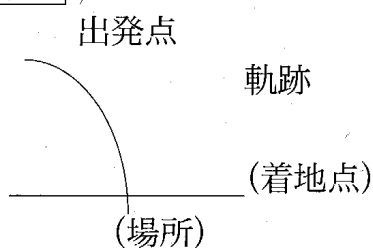
ここで上記のメカニズムを以下に図示してみる。

“V在～”型

“在～V”型

(ある場所で行われる動作を▼で表す。▼は下位分類しない)

“跳”型動態動詞



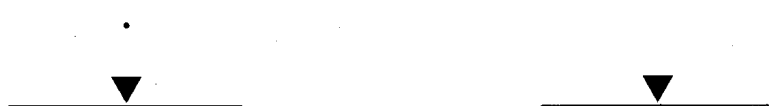
静態自動詞



“走”型自動詞の準静態型



出現・消失動詞



「・」は出発点と着地点が作る軌跡が限りなく 0 に近いことを意味する。

“跳”型動態動詞においては“V 在～”型の動きと“在～V”型の動きの違いは明瞭であるが、静態型自動詞、“走”型自動詞の準静態型の“V 在～”型では、出発点と着地点の作る軌跡が見えないがために、“V 在～”型と“在～V”型の動きは同じように見える。また出現・消失動詞では出発点と着地点の作る軌跡が限りなく 0 に近いため、同様にして軌跡は見えず“V 在～”型と“在～V”型の動きは同じように見える。こうして静態型自動詞、“走”型自動詞の準静態型および出現・消失動詞において、“V 在～”型と“在～V”型の動きは同じように見える、すなわち同じ動きだと意識され、“V 在～”と“在～V”の置き換えが可能になる。そして置き換えが可能になった時、つまりどちらを使っても命題の意味に違いがない場合、無標表現として“V 在～”型が選ばれ、場所に対比性が求められると“在～V”型が選ばれる(ただし統語制約によって“在～V”型が選ばれた場合は別である)。

ではなぜある場所で上記の動詞による動作が行われた時一般に“V 在～”型が選ばれるのか。これは中国語の統語構造からいって、動詞が前に来て場所と

いう名詞成分が後ろに来るのが自然だからだと思われる。“在～V”型になると対比性が出るのはなぜなのか。鵜殿 1998 には「新情報が主題化され…(中略)…もともと文中にあった焦点を文頭へ移動すると、文外の対照・並列の命題を含意する」とある。すなわちここで言う対比焦点になると言っている。“在～V”型では“V在～”型における後置焦点が前置され、同様の現象が起きていると考えられる。ただし本稿で対象としているのはあくまで“在～V”型と“V在～”型の間で置き換えが可能なものについてであって、両者において置き換え不可能な“在～V”型や“V在～”型について論じるものではないが、それらがさまざまなコンテクストに置かれる中で“在～V”型に対比性がなく、“V在～”型に対比性のある場合もあるだろうと想像する。

以上初めに提起した①両者間の違いが明確でない“V在～”型と“在～V”型はどのようなルールで使い分けがなされているのか、②なぜこれらの動詞ではこのように違いが明確ではなくなるのか、③違いが明確ではなくなる時、“V在～”と“在～V”の文法的な意味には変化が起きているのか、について検討してきたがある程度の説得力を持つ答えを出すことはできたと思う。

注

- 1) 范继淹 1982 では、陈重瑜 (1978) 评戴文，举“他死在厨房里”为例。指出“他”并非受动作“死”的影响后而居于“厨房里”(当然也不是通过“死”这个动作而达到“厨房里”)，必先在厨房而后死去。(中略) 这种用法很常见，(飘，飘浮，留，溶化，昏迷，走，断送，分布)とある。すなわち“死在～”における「ある動作をして、何かがある場所に位置づけられることを表す」という意味に疑義を呈し、その類に本稿でいう静態的自動詞(“留”“分布”)、出現・消失動詞(“溶化”“昏迷”“断送”)、“走”型自動詞(“走”“飘”“飘浮”)を挙げている。
- 2) 朱德熙 1981, 卢涛 1997, 周媛 2003
- 3) 朱德熙 1981
- 4) 卢涛 1997 でも、「出現と消失の動詞は、静的動詞と同様に、「在」の位置交替に伴って命題意味が変わるといことが読み取りにくい。それぞれ複雑な語用機

語用論から見る置き換え可能なV在～と在～V

能が備えられるもので、これについては単純な文の構造を超えたテキストの構造においてしか説明できない」としている。

- 5) 用例につけた?のマークは、文法的には成立するが文脈上使いづらいというインフォーマントの語感を表している。
- 6) 周媛 2003 にも「“生活、住、居住、生長、長”などの動詞の時、“在～V”文より“V在～”文の方が圧倒的に多く」とある。
- 7) 齐沪扬 1998 には“位置句就可以分成两种情况：在空间轴和时间轴都处于初始状态的，我们称之为绝对位置句；在空间轴上处于初始状态，在时间轴上处于运动状态的，我们称之为相对位置句。“主席团在台上坐着”和“一个人在路上走着”就是典型的绝对位置句和相对位置句”とある。

〈参考文献〉

- 朱德熙 1981 〈“在黑板上写字”及相关句式〉《语言教学与研究》第一期
卢涛 1997 「[在大阪住]と[住在大阪]」『中国語学論文集』東方書店
周媛 2003 「現代中国語文の情報配置原則からみた“V在～”文」『お茶の水女子大学中国文学会報』第22号
张伯江、方梅 1996 《汉语功能语法研究》江西教育出版社
齐沪扬 1998 《现代汉语空间问题研究》学林出版社
范继淹 1982 〈论介词短语“在+处所”〉《语言研究》
鵜殿倫次 1998 「[とりたて]と[焦点]」『中国語学』245号
温锁林 2001 《现代汉语语用平面研究》北京图书馆出版社
M.A.K. ハリデー 2003 『機能文法概説』くろしお出版

〈用例出典〉

- 王朔《王朔文集》云南人民出版社 2002
刘恒《拳圣》解放军文艺出版社 2000
黑马《混在北京》中国社会科学出版社 2000
刘心武《楼前白玉兰》中国广播电视出版社 2000